



卓 話



「バギオ基金について」

国際ロータリー第2580地区バギオ基金委員会
委員長 齊藤 実氏

バギオ基金の歴史・生い立ち・背景からお話をしたいと思います。

バギオは首都マニラから北へ約250km、標高約1500mで、人口30万～35万人の学園都市であります。フィリピン第2の都市で日本の避暑地である軽井沢の様なところです。1903年（明治36年）ロータリーが出来る2年前、日本人125名を載せた東洋汽船の香港丸と言う一隻の客船がフィリピン・マニラ港に錨を降ろしたのが始まりです。



バギオ山頂に続くベンゲット道路は、当時、支配していたアメリカのケノン少佐が工事責任者でした。大変な難工事で、なかなか進みませんでした。そこで、日本人がまじめで勤勉なのを知り労働者を募集したのです。50メートルに一人、人柱が出来るほどの難工事でしたが無事完成し、残った人達は現地の人と結婚したりしてフィリピンにしっかり根をおろし、各地に豊かな邦人社会を形成しました。この道路はケノン道路ともよばれていました。延べ2000人の日本人労働者が工事に関係し約700人の人が犠牲になったと言われています。1941年（昭和16年）12月8日真珠湾攻撃（パールハーバー）により第二次世界大戦（太平洋戦争）が始まりました。ただこの数時間前にマレー半島コタバルに日本陸軍が上陸し、フィリピンにも同日空襲しているのです。アジアから始まったアジア・太平洋戦争とも言えます。軍人・軍属合わせて60万人が注ぎ込まれ、そのうち10万人しか戻ってないので、50万人近い人が戦死しています。山下大将率いる日本軍の軍司令部があった為、最大の激戦地となりました。敗戦後、この日系フィリピン人達は激しい報復と迫害を受け、バギオ山中に逃げ、日本人であることをひた隠してひっそりと生活をしていました。その生活の悲惨さは想像を絶するものでした。

そんな捨てられた民に救済の手を差し伸べたのが、カトリック修道院シスターテレジア海野でした。シスター海野は静岡市生まれ。還暦を機にフィリピンの貧しい人々のために余生を捧げるべく、1972年マニラのマリア宣教者フランシスコ修道会に赴任しました。たまたま休暇にバギオへ行く途中、ベンゲット道路開拓には日本人労働者が活躍したという事や、その後の彼らの境遇を聞き、彼らの子孫は今どこでどうしているのだろうと心を痛めました。そして手当たり次第に日系人の消息をたずね歩き、一人二人とその存在を明らかにしていきました。「もう日系人だと隠さなくても大丈夫。これからは皆で助け合っていきましょう」と言うシスター海野の言葉に、海苔巻を食べながら27年ぶりに日本語を話し、人々は声をあげて泣いたといいます。“なにか私にできることはないの”と言うシスター海野の言葉に、彼らの答えはいつも子供の教育のことばかりでした。ほとんど定職をもたず食べていく事もままならない彼らにとって、学校の授業料は大変な負担でした。この恵まれない日系人の子供達に奨学金を提供し、この国の為にな有意な人材を育てるお手伝いの協力をお願い出来ませんかとの相談がありました。

当時、ロータリークラブで東京は258地区として1つの地区でした。その世界社会奉仕（WCS）の活動の一環としてバギオを取り上げました。現地のロータリークラブの協力も得て、準備期間3年をかけ1981年9月にバギオ基金が設立され今日に至っています。ロータリーの奉仕活動にはいろいろな制約があり、長く続けることは難しい中、29年間も続いている育英事業バギオ基金はすごいなと感じています。

2010年6月30日現在で約28,300万円の基金規模です。正味財産としては約29,300万円程度でしょうか。これは日本全地区（34地区）の330R.C.約3,666名の後援者から頂いております。バギオ基金はこの利息運用益のみで活動しています。継続は力と申しますが、育英事業は一度始めたらなかなか途中でやめられないのが実状です。RIの協調事項でもある識字率の向上があります。ロータリー財団・米山奨学に次ぐ第三の育英事業・育英基金として位置づけられたらいいなと思っています。

又、毎年バギオ訪問交流の旅として行っています。昨年度は22年2月4日（木）～7日（日）に2750地区東京港南R. C. の提唱で18R. C. から41名の参加で実施しました。百聞は一見に如かずと申します。機会があれば一度訪問されるといいと思います。

2008年4月よりバギオ基金奨学生より留学生を受け入れる事になりました。福井県の敦賀短期大学に在学しています。また、2650地区敦賀R. C. の神谷パストガバナーのお力で、病院でのアルバイトも出来、寮（宿舎）の提供もしていただき本当に助かっています。今年は2名の学生を受け入れ、現在5名の留学生が在籍しています。日本で勉強し、卒業後はバギオに帰って活躍するか、日本で就職しフィリピンとの虹の架け橋に

成長してもらえるといいなと考えています。

2008年7月より「バギオだより」を発行しました。各クラブの会員の皆様に読んでいただけたら幸いです。これからも草の根運動で頑張りますのでよろしくお願いいたします。

尚、2009年7月1日より、今まで任意団体でしたが、正式な財団法人として事業を発展することになりました。名称は「比国青少年育英会バギオ基金」から「一般財団法人比国育英会バギオ基金」と改めスタートします。今後ともよろしく御協力お願いします。貴クラブの益々の発展を祈念いたしまして卓話を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。